

MUSEUM

ミュージアム・アイズ

EYES

Mm
MEIJI UNIVERSITY
MUSEUM

Vol. 66
2016

特集

常設展示リニューアル企画
明治大学博物館検定



Criminal
Commodity
Archaeology



▶ Contents

- 博物館活動報告 — 伝統的工芸品の経営とマーケティング Vol.10 「備前焼の新たな価値創造」
- 市民レクチャー — 延岡藩の時献上～鮎調達をめぐる規制緩和～
- 展示&リサーチ — 『リトルウィッチアカデミア』の世界：アニメ発メディアミックスの新潮流「展塩作りの技術と起源をもとめて」
- 学芸研究室から — 後期旧石器時代の黒曜石利用と中部高地黒曜石原産地の土地利用(2)
- 収蔵室から — 高砂文字入蓬萊紋柄鏡からみる和鏡の意匠
- 南山大学協定通信/図書室から/博物館入館者数の動き/団体見学の記録/M2カタログ/博物館友の会から

常設展示リニューアル企画 明治大学博物館検定

難易度の高い設問もありますが、展示内容をじっくりご覧になれば自ずと答えがわかるはずですよ。

旧3博物館が統合され新規に開館してから12年。この間の学界動向や博物館における調査・研究の成果を解説内容に反映し、新規に収集した資料、再評価された資料を加えて常設展示室がリニューアルされました。今回はクイズ形式で展示内容の見どころを紹介します。

商品部門 | Commodity

経済産業省による伝統的工芸品指定事業においては、生活実用品を供給する一定規模の産地を維持するという考え方から、持ち味を変えないという条件付で代替材料の使用や機械工程の導入が認められています。

Q1. 次の選択肢の内、伝産指定において認められていない技法はどれか？

- ① 化学染料の使用 ② ガス窯による焼成 ③ 漆器の器胎への合成樹脂利用

漆が接着剤としての機能を果たすことから、漆器製品へのさまざまな加飾技法が生まれています。金蒔絵とは、文字通り、下絵を漆で描いた上に金粉を蒔くことによって器面に接着し、絵柄を表現しています。

Q2. 器面に刃物で溝を切って金を埋め込む技法を何と言うか？

世界の一流メイクアップアーティストの需要を独占する広島県熊野町の化粧筆は、伝統的な筆の産地で生産されています。しかし、化粧ブラシと表記されることもあるように、筆と言っても書筆とは製法が異なります。

Q3. 化粧筆が熊野筆から受け継いでいる伝統とは何か？



熊野化粧筆

陶磁器は素地原料の特性から施釉陶器、無釉焼締陶器、磁器の3類型に分かれます。この内、世界的には磁器が最も高い美術的価値を評価されていますが、日本では3つの類型それぞれに高い評価が与えられています。

Q4. 雑器としての利用が一般的である無釉焼締陶器が評価される理由としては何が考えられるか？



備前焼水指

刑事部門 | Criminal Materials

高札による法の周知は、江戸時代に全盛を迎えました。その後、明治政府は明治元年(1868)に、これまでの高札を撤去して太政官名で高札を立てますが、同6年に高札制度を廃止しました。

Q1. 明治元年に明治政府が立てた5つの高札をまとめて何と言うか？

ヨーロッパでは、啓蒙思想の展開の中で刑罰に対する考え方も変化していきます。1764年に、ある人物が『犯罪と刑罰』という本を出版し、刑罰制度の非人道性を批判し、死刑と拷問の廃止を唱えました。

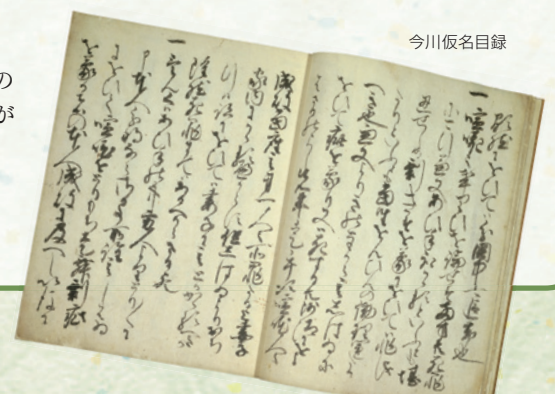
Q2. 『犯罪と刑罰』の著者は？

刑事部門の常設展示室では、古代・中世・戦国・近世の法令、江戸時代の法と刑罰、明治以降の刑罰、諸外国の刑罰をテーマに、さまざまな資料が展示されており、過去の法と刑罰について知る事ができます。

Q3. では、現在・未来の法と刑罰のあり方はどのようなものであるべきか。



高札 切支丹禁制(江戸時代)



今川仮名目録

日本列島の後期旧石器時代と縄文時代では、人々は狩りや食料加工のための道具に石で作られた石器を使っていました。

Q1. 後期旧石器時代にはなく、縄文時代になって初めて使われた石器はどれか？

- ① 磨製石斧 ② 石鏃 ③ 尖頭器

中部・関東地方の後期旧石器時代には、火山の噴火で生成される黒曜石という天然ガラスが石器の原材料に使われていました。

Q2. 中部・関東地方の後期旧石器時代人が石器原料に使った黒曜石のうち、原産地がある太平洋上の島はどこか？

- ① 新島 ② 三宅島 ③ 神津島

海浜部の環境に適応した縄文時代人は、海産資源を食料として利用し、多数の貝塚を残しました。

Q3. 縄文時代の貝塚から見つからないものは次のうちどれか？

- ① 石鏃 ② 銅鏃 ③ 釣針



夏島貝塚出土釣針

縄文時代には、焼き物、骨角歯牙製、貝殻製そして石製の独特な装身具や祭祀具が盛んに作られました。

Q4. 博物館の展示にない縄文装身具・祭祀具は次のうちどれか？

- ① 土偶 ② ヒスイ大珠 ③ 岩版

弥生時代になると、大陸から水田でイネを栽培する方法が日本列島に伝わりました。九州で始まった稲作は、次第に東日本へと広がっていきました。

Q5. 稲作とともに東へ広がっていったと考えられるものは次のうちどれか？

- ① 井戸 ② 石棒 ③ 甕棺 ④ 遠賀川式土器

銅鐸は、弥生時代にまつりの道具として用いられた青銅器です。小型のものは鐘のように音を鳴らし、大型品は豪華な文様を施し、見て拝んでいたと考えられています。

Q6. 銅鐸に関する事柄として、誤っているのは次のうちどれか？

- ① 近畿・東海地方を中心として、西は佐賀県から東は長野県までで出土している。
 ② 音を鳴らす際は、外側から木や金属の棒で叩いていた。
 ③ 吊り手の部分の太さや幅の広さで新しいものと古いものを見分けることができる。
 ④ 石や土の鑄型で作られ、細かな文様を描き、厚さ1mmほどの薄さで仕上げる部分もあるなど、高度な技術で製作されている。



四区袈裟縄文銅鐸 (明大4号銅鐸)

古墳時代は権力者の墓である古墳が多く造られた時代です。さまざまな形の古墳が造られましたが、その中でも上位の階層の人々の古墳としてよく用いられた形があります。

Q7. その形の古墳は次のうちどれか？

- ① 円墳 ② 方墳 ③ 前方後方墳 ④ 前方後円墳

埴輪(はにわ)は古墳時代に作られた土製の焼き物で、筒形をした円筒埴輪と、人や動物、家や武器、武具を象った形象埴輪があります。

Q8. 人物、動物埴輪の使い方として正しいものはどれか？

- ① 村の入口に並べ、魔よけにした。
 ② 美術品として高値で取引され、王の館などで飾られた。
 ③ 葬られた王の生前の暮らしや葬儀の様子を表し、古墳に並べた。
 ④ 守り神として家1軒につき1体ずつまつっていた。



玉里舟塚古墳出土 馬形埴輪

正解 は次のページ ▶▶▶

明治大学 Online Museum (仮称) の公開について

「明治大学 Online Museum (仮称)」は、博物館コレクションにもとづく各種のデジタルコンテンツをインターネットで公開することにより、従来の展示、生涯学習講座とは異なる形でコレクションの詳しい学術情報を市民・研究者等に提供することを目的としています。2016年の春には、部分的に公開を開始する予定です。

現在の大学ホームページによる情報発信は、博物館の利用情報や活動の周知を中心とした内容です。これに対して Online Museum は、コレクションそのものに関する情報の発信に主眼をおいています。したがって、両者は役割が異なる一方で相互に補完する関係にあるといえます。

Online Museum が提供する予定のコンテンツは、大きく次の5つのカテゴリーに分かれます。

- 常設展示室のバーチャルツアー
- コレクションの系統的なデータベース
- コレクションの性格に即した各種デジタルコンテンツ
- 各種展示会の内容を番組化した映像コンテンツ
- 各種刊行物のデジタル配信

博物館は、インターネットを利用した国内外への本学の教育・研究資源の公開事業の一環として、この Online Museum を位置づけています。膨大な博物館コレクションは、これまで展示、図録等の媒体でその内容が公開されていますが、全体のごく一部であることはいうまでもありません。Online Museum では、常設展バーチャルツアー、データベース、教育コンテンツ等のデジタル媒体を駆使して、多様なコレクションの全体像と詳細な学術情報を国内外に発信します。2015年度からの3カ年で2000件程度のデータベース、100件程度の教育コンテンツの発信を目標とする計画を立てています。

博物館コレクションに関する情報提供という点では、通常の来館者に常設展示が提供できる情報は極めて限定的であるといえます(例えば、展示品の裏側は見えない)。Online Museum では、来館者がより広く、深く情報を得る(例えば、3D画像で展示品の裏側も見ることができる)ための学習機会を提供します。一方で Online Museum を訪れたことにより、その「実物」がある博物館を訪れるという新たな動機づけの効果も期待できます。また、多言語対応をとおして、国指定重要文化財など貴重な大学資産を含む博物館コレクションの海外発信を行うことも検討していきます。



※イメージ

360度から資料を見ることができる

ミュージアムショップの改修

常設展示の改修工事に合わせて、ミュージアムショップも設備を改修しました。当館のミュージアムショップは情報と交流のスペースとして活用されています。ご来館の皆さまにはアンケートのご記入をいただくなどしていますが、テーブルとイスは室内の装飾にマッチした木調の家具に入れ替えました。

また、壁際の棚ではミュージアムグッズや刊行物の展示に加え、他の大学博物館や当館の展示に関連するテーマの博物館のリーフレット類、当館資料の写真が収録されたお子さん向けの書籍などを備え、掲示板には友会の情報コーナー、博物館に関する報道、そして、皆さんにお書きいただいたアンケートを掲示していますが、これらの掲示板やコーナー表示も一新されています。

イギリスやアメリカの博物館では、来館者の感想・意見を書いたアンケート用紙がたくさん掲示されているのを目にします。博物館展示の見方は、見る人によって全く変わったものになる可能性もあります。是非、印象に残ったことなどをお書きください。この掲示板を通して、多くの人々と「視点」を共有するとともに、展示物に対するご自身のご意見をぜひ表明いただければと思います。ご質問には担当学芸員が回答しています。



● 博物館検定 (P2~3) の正解

商品部門 Q1 ③ Q2 沈金 Q3 原材料を吟味する技術 Q4 侘び茶との関わりから茶道具として評価されてきた

刑事部門 Q1 五榜の掲示 Q2 チェーザレ・ベッカリーア

Q3 この問題に正解はありません。皆さん一人一人が考え、議論し、答えを探して行きましょう。

考古部門 Q1 ② Q2 ③ Q3 ② Q4 ② Q5 ④ Q6 ② Q7 ④ Q8 ③

公開特別講義 伝統的工芸品の経営とマーケティング Vol.10

備前焼の新たな価値創造 —そのローカルアイデンティティを生かす— を開催しました

去る2015年11月27日、博物館と大学院商学研究科の共催、商学部の後援により他研究科・学部の院生・学生や一般社会人に門戸を開いた公開特別講義を開催しました。博物館の商品部門は商学部教員と共同で産地研究をおこない、その成果報告会という形で例年この特別講義を開催しています。備前焼（岡山県）は釉薬を用いずに焼き締める“侘び”“寂び”が持ち味の我が国を代表する焼き物の一つです。他の産地と比較して印象的なのは、窯元の数が少ない一方、多くの陶芸作家が個人の名前で一般商品を販売していることです。作家活動が活発なのは陶芸の産地としては最多の5人の人間国宝を輩出していることが背景に



ありそうです。備前焼を取り上げる3年目は、作家によるマーケティング活動に着目し、都内のギャラリーでも積極的に個展を開催している中堅作家澁田寿昭氏を講師に招へいしました。作家と言っても、美術展に出展する作品を制作するばかりではなく、美術的な付加価値の高い商品を製造・販売するメーカーの経営者でもあります。

備前焼は、使用する地元産陶土の特性と、薪窯焼成という古式の製造方法によってはじめてその持ち味が発揮されます。すなわち、原料と製造技法という点で、他の産地とは異なるローカルアイデンティティを形成していると言えます。このことは、規格化・標準化による量産という手段を採り得ないことをも意味し、その製品は作家の個性を反映した美術的付加価値をもつ高級商品となり、それに相応しいマーケティングの手法が必要です。討論では、一般的なマス製品との比較から価格設定、商品開発、ブランディングなどについて備前焼の特性が明らかになりましたが、最も印象的であったのは、「お客さんの要望に

応えて作るというのは、それは作家活動とは言えないのではないかと私を私に言ったのです。自分のスタイルや考え方をモノで表現するのが作家活動で、それに共鳴してくれたお客さんが買ってくれる」という部分でした。作家ならではの着眼点と言えますが重要な指摘であると思います。売れているものばかりを取り扱えば、いつかは飽きられます。新たなトレンドを生み出すには「自分のスタイルや考え方」というのが不可欠であると思います。それを創造するには何をすればよいのか？ 伝統的工芸品のマーケティングにとっての終わりのない課題です。

※この講義の抄録は『明治大学博物館研究報告』21号（2016年3月31日刊行予定）に収録されます。



図書室から

「図書室から」では、博物館併設の図書室に関することや図書についてご紹介します。今回は、「代本板」についてとりあげます。

皆さんは博物館図書室を利用する際、「代本板」を活用しているでしょうか。最近、図書が元の場所に戻されておらず、不明本が多く発生しています。実際に探してみると全く別の場所にあったりします。

前回、取り上げたように、博物館図書室の図書も基盤は日本十進分類法からなっています。しかし発掘調査報告書に関しては博物館図書室オリジナルの請求番号（遺跡名の頭文字がアルファベット順、その中で五十音順）のため、請求番号を正しく理解していない方も多く、正しい場所へと戻されていないのが現状です。また、ご自身で戻していただくシステムのため、分からないと適当に戻されてしまっています。

このようにならないために、図書室に設置されている代本板をぜひ活用してください。検索用パソコンの横と奥のデスクの二箇所にオレンジとピンクの代本板を設置しています。代本板を差し込んでおくだけで、どこから本をとったのか分かりやすくなります。また、代本板があることで該当の場所にある図書が利用中かどうかも分かります。オレンジの代本板は厚い図書に、ピンクの代本板は薄い図書にご活用ください。図書の正しい場所への返却にご協力をお願いします。



第2期3ヶ年の成果

第2期は両館の特色的な収蔵資料の交換展示をおこない、それをテーマとする在学生対象の特別講義、一般対象の公開講座の開催というコンセプトを掲げました。名古屋市博物館での特別展やシンポジウムの成果を書籍に刊行するといった大型事業が相次いだ第1期に対し、派手さはありませんでしたが第2期も着実な成果を上げています。この間、2013年10月には南山大学の新博物館が開館しました。本学博物館との交流が、その開館初期における事業の記憶として末永く残るのではないのでしょうか。以下はその成果の記録です。



2013年度 会期11月9日(土)～12月14日(土)

南山大会場 史料が語る江戸捕物帖の世界

明治大会場 パプアニューギニアの物質文化

～南山大学とアウフェンアンガー神父収集コレクションより～

特別講義 民族誌資料をめぐるいくつかのトピックス(黒沢 浩・南山大学人文学部教授12/6)※学芸員養成課程「博物館実習」として実施／祖先の暮らしを知る—文化財としての古文書(外山 徹・明治大学博物館学芸員12/13)※人文学部「人類文化学基礎演習IV」として実施

公開講座 江戸時代の警察制度と治安取締(外山12/7)／南山大学人類学博物館のパプアニューギニア資料について(竹尾美里・南山大学人類学博物館学芸員12/14)

2014年度 会期9月11日(木)～11月8日(土)

南山大会場 東日本の再葬墓

明治大会場 これがわたしのお気に入り

～タイ北部少数民族の女性の衣服～

特別講義 東日本の再葬墓(忽那敬三・明治大学博物館学芸員10/3)※人文学部「人類文化学基礎演習IV」として実施／銅鐸形土製品への視点—モノづくりにおける模倣論の射程(黒沢12/8)※学部間共通総合講座として実施

公開講座 東日本の再葬墓(忽那10/4)／これがわたしのお気に入り・タイ北部少数民族の女性の衣服 出品資料とその背景について(西川由佳里・南山大学人類学博物館学芸員10/18)

2015年度 会期9月26日(土)～10月24日(土)

南山大会場 江戸の刑罰—一応報的刑罰論の超克を目指して

明治大会場 南島との出会い

～今泉コレクションにみる民族造形美術品～

特別講義 南山大学人類学博物館の取組み(黒沢11/6)※学芸員養成課程「博物館実習」として実施／古文書から江戸時代を考える(日比佳代子・明治大学博物館学芸員12/9)※人文学部「人類文化学基礎演習IV」として実施

公開講座 オセアニアの不思議なモノたち(如法寺慶大・南山大学人類学博物館学芸員10/10)／江戸時代の刑罰とその思想(外山10/24)

延岡藩の時献上 ～鮎調達をめぐる規制緩和～

増田 豪 (延岡市 内藤記念館 主任学芸員)

規制緩和は、今後の日本の成長戦略の上で欠かすことのできない重要な施策の一つとして注目されていますが、こうした「官から民へ」「民間にできることは民間で」といった施策の導入は、何も現代に限った話ではなく、いつの時代も大きなテーマであった様子が、延岡藩における時献上の品目の一つであった、アユの調達方法をめぐる内藤家文書の記載から窺うことができます。

剣豪・坂崎磐音を主人公とする佐伯泰英氏の人気時代小説「居眠り磐音 江戸草紙」シリーズの最終巻となる第51巻において、延岡城下を訪れた磐音の子・空也の呟きに答える遊行僧のセリフに「五ヶ瀬川の鮎は天下一品」とあるように、アユは現在も延岡を代表する名産品の一つです。「鮎」「年魚」「香魚」などの表記を持つアユは、古来より人々の生活と関わりの深い、日本における代表的な淡水魚と言えますが、延岡におけるアユの存在を史料上はじめて確認できるのは、『八幡宇佐宮神領大鏡』という史料の中の記述になります。この史料からは、白杵庄や岡富別符といった、現在も大分県宇佐市にある宇佐神宮の荘園が延岡市域内に形成された平安期以降、「贄」として、「鮎鮎十桶 押鮎千隻」が毎年、この二つの荘園から宇佐神宮へと貢納されていたことが窺えます。「贄」とは、生贄という言葉もあるように、宇佐八幡神に神饌として供される貢納物のことですが、こうした記述からは、当時から延岡のアユが、地域を代表する名産品として神様へ捧げるため、わざわざ遠方から運ばせるほどの価値を有する品物であったことを窺い知ることができます。

こうした地域の名産品としてのアユの位置づけは、時代を経ても変わることなく、

江戸時代、延岡藩主が有馬氏、三浦氏、牧野氏、内藤氏と入れ替わっても、アユは延岡藩からの時献上の品目の一つとして引き継がれていきます。実際、延享4年(1747)、磐城平藩より延岡藩へ転封となった内藤氏の家臣達は、先の領主であった牧野氏の家臣達に領内統治に関する様々な情報を尋ねていますが、「内藤備後守家来中ヨリ諸事聞合帳面=附札致遣ス扣」(笠間稲荷神社所蔵 牧野家文書302)からは、「年中御献上物数并御仕立方承度事」として、アユをはじめとする時献上の品物とその数、そして調達方法などについて問い合わせている様子を見ることができます。また、「万覚書」安政6年(1859)8月23日条(内1-6-186)からは、こうして延岡から江戸まで運ばれたアユが、將軍家のもとより、大老・井伊直弼をはじめとする幕閣や内藤氏とかかわりの深い諸大名・諸役人への贈答品として、1920疋配られていることが窺えます。しかし、こうして江戸へと運ばれる時献上用のアユをめぐっては、内藤氏の治世下においても、たびたび規制緩和とも呼べる調達方法の変更が行われています。

「本メ方覚書」(内1-9-57)によると、従来、地引網掛合御料理人を8月彼岸頃からアユの捕獲のために川へ派遣し、献上に相応しいサイズのアユを調達していた方法を宝暦元年(1751)に廃止し、アユの値段をサイズごとに設定し、肴屋から買い上げる方式に変更しています。さらに「万覚書」文化13年(1816)

8月20日条(内1-6-143)には、アユを獲るための網や船、献上のために塩漬けにするための塩と桶などを藩が提供してくれるのであれば、「年々網仕立ハ勿論、御料理方出役御賄并網引合人足賄米等、都而肴屋共手前江引受、市場相続仕候間、年々御献上鮎御定之通相納候」という肴屋たちの申し出を受け、藩は「是迄御分御手引御入用、過分之御出方_茂御座候」との現状と、肴屋に任せることで「年々御省_{ニ茂}可罷成」との判断から、時献上のアユの調達をすべて、肴屋へ任せることを決定しています。こうした藩による規制緩和は、これまではわざわざ時献上用として区別する必要のあったアユ漁の手間や無駄を省くと共に、市場が一つの問題となっているように、アユと一緒に捕獲される魚の流通という点でも、地域経済へ影響をもたらす施策であったことが窺えます。

「歴史は繰り返す」と言われますが、約5万点にも及ぶ内藤家文書には、まだまだ数多くの貴重な情報が眠っています。それらは、現在の私達の生活の中にも活用できる、多くの可能性を秘めたものであり、こうした点からも内藤家文書は重要な史料群であると言えます。



内藤充真院繁子の描いた五ヶ瀬川に架かるアユやな「五十三次ねむりの合の手」文久3年(1863)8月26日条(内・増補5・充真院関係(1)-12)

『リトルウィッチアカデミア』の世界 アニメ発メディアミックスの新潮流 展

森川 嘉一郎 (国際日本学部准教授)

マンガの連載がはじまり、
アニメも流れている。

友達と話題になり、
盛り上がり、グッズが欲しくなる。

そして映画館に、
劇場版を観に行きたくなる――。

「メディアミックス」は、そのような関連商品の販売や観客動員の相乗的な拡大を目論むプロデュース手法として、日本ではとりわけマンガ・アニメ・ゲームの間で、独特な発達を遂げてきました。それはまた、キャラクターや物語世界を、〈作家〉や、特定の〈媒体〉への従属から解放し、より自由に遍在性の高い存在へと昇華させる効果をともなっていました。ファンによる二次創作も、その豊潤な可能性の追究あずかに与ってきました。この「メディアミックス」に焦点を合わせ、国

際日本学部森川嘉一郎研究室では、2015年8月28日から9月19日にかけて、特別展示室を会場に、標記の企画展を開催いたしました。

展示の背景

会期中、とりわけ年配の来場者の方から、なぜ大学の博物館でアニメに関する展示が行われているのかというご質問を幾たびか頂きました。この点について、まずは記します。

日本が輸出するマンガ・アニメ・ゲームは、その国際的浸透力の高さや、米アカデミー賞受賞に象徴される文化的評価が、とりわけ2000年代以降、さまざまに報じられるようになりました。これを背景に、政府はいわゆるソフトパワーの重要な一角としてそれらを位置付け、経産省や文化庁、内閣府知財戦略本部などが、それぞ

れ産業的側面や文化的側面、さらにはTPPの重点分野となった知的財産としての側面などから、振興策や利活用策を打ち出すようになりました。TPPの大筋合意を受けた著作権法改正の方針について、首相や文科相が「(マンガやアニメの)二次創作が萎縮しないよう留意する」と直接言及したことは、単に「海外で売れている」ことのみならず、今回の展示で主題としたメディアミックスの基盤の1つとなる二次創作の慣行が、日本のマンガ・アニメ・ゲームの独特の発展に与っていることにまで、閣僚の関心や認識がおよんでいることを傍証することとなりました。

他方、前述の来場者からの問いかけにも表れているように、マンガ・アニメ・ゲームは近年まで高等教育機関における体系的な研究・教育の対象と見なされてこなかったことから、このような国策、さらには関係する企業などの判断を支える知見や人材が、不十分な状況にあります。明治大学では、国際的な企業活動に与る人材の育成などに力点を置き、2008年に国際日本学部を開設しました。そして上記のような社会的要請に応じ、日本のマンガ・アニメ・ゲームを研究・教育の対象に含めるとともに、その発信の方法論を追究してきました。教員と学生が協働し、制作会社などと連携して企画・制作した今回の展示も、そのような取り組みの一環として実施されたものです。



展示室入り口



展示内観

「メディアミックス」 の発達史

1980年代頃より「メディアミックス」と呼ばれるようになった広告、あるいはプロデュースの手法は、食品にオマケとしてマンガを付けたり、菓子売るために紙芝居を行ったりといった、フィクションやキャラクターを使った商品の販売促進手法をその源流の1つとし、日本においてはアニメなどの製作と不可分な形で発達してきました。とりわけ劇場用作品の興行と結びつけて定石化させたのが、80年代に多くのアニメ映画を製作した角川映画で、「読んでから見るか、見ながら読むか」という当時のキャッチコピーに端的に示されているように、角川書店が発行する原作小説やマンガ、情報誌などのキャンペーンで映画版の観客動員を図るとともに、映画を原作出版物の販売促進に使うという、相乗効果を開拓しました。

また、『指輪物語』などのファンタジー小説の愛好家たちが、その世界観を追体験するためにロール・プレイング・ゲームと呼ばれる対話型のゲームを発達させ、これがやがてコン



展示内観

ピュータ・ゲームの一大ジャンルへと発達したように、作品の受け手が主体となって他媒体への移植を開拓してきた潮流が他方にあります。現在は、両者が合流したさまざまな形態が見受けられます。

『リトルウィッチアカデミア』 という事例

文化庁の事業の中で作られたアニメ『リトルウィッチアカデミア』（2013）は、若手アニメーターの育成を主眼に作られた作品で、「売れる」ことを要請される商用アニメとは異なる枠組みで製作されました。ところが期間を限定し、英語字幕を付けてYouTubeで公開されたところ、海外から多数の絶賛コメントが寄せられ、続編が囑望されるようになりました。そこでクラウドファンディングで続編の制作資金の募集がなされたところ、開始から5時間で目標額の15万ドルを達成し、最終的には60万ドルを超える記録を作りました。

結果として同作品は、玩具メーカーなどをスポンサーにして関連商品の宣伝を担うタイプのアニメや、主にDVDやブルーレイの売上げで資金回収がなされるタイプのアニメ、さらには興行収入を柱とする劇場用アニメなど、これまでのアニメのビジネスモデルとは異なる、アニメ製作の新しいモデルを拓く可能性を秘めることとなりました。かくして製作された続編『リトルウィッチアカデミア 魔法仕掛けのパレード』（2015）は、劇場公開に際し、出資したファン以外の人々にも視聴層を

拡大すべく、マンガ化をはじめとする多媒体での展開が行われることになりました。その一環として展覧会の実施が企図され、製作者より検討依頼を受けた森川研究室が、同作品を事例にして「メディアミックス」を主題にした展示を行うことになりました。

展示的表現

展示では会場空間を3つに分け、第1部では1900年代初頭のシリアル食品に付けられたマンガから『新世紀エヴァンゲリオン』など近年のメディアミックスの事例にいたる販促手法の発達史、第2部では『リトルウィッチアカデミア』のキャラクターや世界観をベースに制作されたマンガ版や二次創作など複数の媒体にまたがる同タイトルの作品群、第3部ではそれらの展開によって興行の一端が支えられる同タイトルの劇場用の続編を、それぞれ実物資料や原画などによって展示しました。とりわけ第2部ではそれぞれの媒体ごとにメイキング映像を展示のために撮り下ろし、紙と鉛筆、ペンとインク、さらにはパソコンとタブレットなど、作家やメディアごとに異なるさまざまな技術が、共通のキャラクターや世界観を支え、さらには拡張させていく構造を感得できるようにしました。加えて森川研究室では来場者に向けた独自のキャラクター商品を企画・製作し、メディアミックスを構成する重要な要素の1つとして会場で販売しました。



展示用に企画開発したオリジナル商品
(ポストカード兼ペーパークラフト)

展示の実現にあたっては、『リトルウィッチアカデミア』に関わる多くの方々より多大なご協力を頂きました。この場を借りて感謝申し上げます。

塩作りの技術と起源をもとめて

阿部 芳郎 (明治大学文学部教授
日本先史文化研究所所長)

製塩史のナゾ

「来ぬ人をまつほの浦の夕風に 焼くや藻しほの身もこがれつつ」と藤原定家が詠んだ歌には、海辺での塩作りの光景が読みこまれているという。これより以前、「常陸国風土記」には9世紀ごろの霞ヶ浦西南岸の浮島という場所で塩を焼いて生業としていた人々の生活誌が記録されている。このように古代より塩は藻を焼いた灰を用いていたらしいことが推測されてきた。

岩塩の採れない日本は、海水中に約3%しか含まれていない塩を結晶化させることによって塩を得ていたのである。

日本古代の製塩の研究は考古学よりも古代文献史学の歴史が長い。近年では木簡文書の研究も進み、地方から都へと運ばれた塩の流通ルートの研究も盛んである。一方、具体的な塩作りの技術についての研究は「藻垂れ」「焼

き塩」「藻塩」「藻しほ草」などの言葉からの類推に終始し、具体的な研究は進んでいない。

塩作りの証拠を見つける

考古学における製塩研究は塩作り専用の土器（製塩土器）の研究からはじまる。香川県喜兵衛島遺跡（国史跡）の発掘では海辺で火を焚いた炉址や赤く焼けた薄手の土器片が層を成して発見された。発掘をおこなった近藤義郎は、この状況から古代製塩址であることを推測したのである。

近藤は同様の土器が縄文時代晩期の霞ヶ浦湖岸の広畑貝塚（国史跡）でも出土する情報を入手し、ただちにこの貝塚を発掘し、縄文時代後期後半から晩期にかけて土器製塩がおこなわれたことを突き止めたのである。

1965年には明治大学考古学研究室が広畑貝塚の近くの美浦村法堂遺跡の発



写真2 アマモとウズマキゴカイ

掘をおこない、ここから製塩炉と呼ばれる大型の炉とその周囲に夥しく堆積した製塩土器の層を確認し、具体的な製塩址と考えられた（写真1）。その後、各地の博物館などで薄手の製塩土器が実験的に製作されて海水を煮詰めた製塩実験がおこなわれるようになった。しかし、これらの実験は土器で海水を煮沸するという単純な方法で、大量の薪と労力を必要とする割には得られる塩はわずかな量なので、結晶塩の付加価値が想像以上に高かったという推測を増長させた。

1990年には愛知県松崎遺跡で古代の製塩遺跡の貝塚からアマモという海藻に付着するウズマキゴカイという環形動物の微小な棲管（写真2）が大量に発見され、また大半が焼けていたため、渡辺誠は海藻を焼いて灰にして用いた藻塩法が存在したことを実証した。ではその起源はいつまで遡るのであろうか。

新たな発見

近年、筆者らによっておこなわれた研究によって茨城県広畑貝塚の炭酸カル



写真1 茨城県美浦村法堂遺跡の製塩址（縄文時代晩期）

シウム塊（白色結核体）から焼けたウズマキゴカイの棲管が大量に発見され、藻灰を用いた塩作りの伝統が縄文時代晩期にまで遡ることが明らかになった。さらに法堂遺跡の過去の発掘によって製塩炉から採取されていた灰の中からも、同様に焼けたウズマキゴカイの棲管や海藻に付着する微小貝、アン原に生息する微小貝などが発見された。

しかし、焼いた海藻の灰を具体的にどのように利用したかということについては、海藻に海水をふりかけて塩を付着させた後に海藻を灰にして、塩の混じった灰にふたたび海水をかけて塩分を濃縮するという想像があるほかは具体的な手がかりは得られていなかった。

しかし、法堂遺跡からは製塩土器の内側に焼けたウズマキゴカイが灰とともに付着して発見され、藻灰は海水の濃縮に利用されたのではなく、海水とともに煮沸されたことが推測された。

実験による検証

遺跡から発見されたわずかな痕跡は、それだけでは十分な根拠にはならない。推測が事実か否かを判断する方法の1つとして実験考古学がある。

実験ではアマモに海水を注いで乾燥させ、塩分濃度がどの程度上がるかを実験した。その結果、塩分はきわめて僅かしか付着しないことを確認した。これまでの推測は合理的な結論を



写真3 様々な製塩実験の様子



導かなかった。

次にアマモを焼いて藻灰を作り、これを実験製作した製塩土器に入れて加熱し、その上から海水を少しずつ注いだ。

すると高温の土器の内部では毛细管現象が促進され、注いだ海水は短時間で蒸発して土器の内面に結晶化しはじめた(写真3右)。これは海水の直煮よりも効率が良く、しかも土器の一か所だけに結晶化するので採取が簡便である。こうした実験結果から、藻灰は海水の濃縮媒体ではなく、結晶媒体として利用されたことがわかった。

こうした実験結果を整理していたところ、2013年に東京都の北区西ヶ原貝塚から火にかけられた跡が残り、中に灰が入れられた小さな深鉢が発見された。さっそくこの灰を分析したところ、中から焼けたウズマキゴカイの棲管と海藻付着性の珪藻が発見された。

私たちの推測と実験結果を結びつける遺物がついに現れたのである。藻灰は土器の中に入れて加熱して使われたことが実証できた。

最古の塩作りの痕跡をもとめて

現在は製塩の起源がどこまで遡るかという新たな問題を検討するために、各地の貝塚の土壌を入手して分析を進めている。現時点では海藻が焼かれて灰として利用された痕跡はこれまでの定説であった縄文時代晩期初頭（今から約3200年前）から後期前葉（約4200年前）頃まで、約1000年も古く遡ることがわかってきた。今後その時期がいっつまで古く遡るのか、研究所では日本における塩作りの起源を突き止める研究が続けられている。

製塩の手がかりを土中に見つける作業は通常の発掘ではなく、ミリやマイクロンの世界での作業である。そのため顕微鏡を覗く地道な作業が終日続く。

最後に入学間もない時期からこうした地道な作業に挑んでいる若い学生の声聞きながら、この研究の行く末と考古ガールの未来に期待することにした。

地道な作業の先には・・・

考古学専攻1年 竹林 香菜

4月に史学地理学科の考古学専攻に入学してから数か月間、私はウズマキゴカイを顕微鏡で見つける作業のお手伝いをしました。きっかけは、初めて研究所を訪れた際に、縄文時代の遺跡の貝層をサンプリングさせていただいたことでした。

顕微鏡を使った観察では、事前に水洗選別した土や灰等を刷毛でより分け、微小な貝を取り出しました。この観察は容易なものではなく、1日のうち4時間程の観察を数か月間行いましたが、ウズマキゴカイが確認できない日の方が圧倒的に多く、何度もくじけそうになりました。

このような中で一番印象深かった出来事は、当時見つかっていなかった約4000年前の住居の炉の灰から一つのウズマキゴカイを発見したことでした。これがその段階で一番古い時代の塩作りの証拠であることを知った時、苦労した分喜びもひとしおでした。その発見と地道に顕微鏡をのぞいた日々は一生忘れられない経験になりました。研究を積み重ねていくことの大切さを実感できました。

後期旧石器時代の黒曜石利用と 中部高地黒曜石原産地の土地利用(2)

島田 和高 (考古部門学芸員)

3. 結果 (図を参照)

(1) EUP (後期旧石器時代前半期) 前半 (3.8-3.2万年前)

中部・関東地方の中部高地産黒曜石利用は、後期旧石器時代で最大の比率を示している(81.2%)。列島人類居住のはじまりとともに全ての原産地が発見、利用される。しかしながら、中部高地原産地の遺跡の発見は少ない。中部高地石

器群は、原石加工のワークショップやキャンプサイトからなり遺跡の機能は多様化している。3万年前以前の中部高地の花粉記録は得られていないが、標高800~900mの周辺山間部では、MIS(海洋酸素同位体ステージ)3はMIS2よりは温暖で、亜氷期・亜間氷期のサイクルに連動して亜寒帯針葉樹林と冷温帯落葉広葉樹林が交代する様子が復元されている(公文ほか, 2013)。

(2) EUP 後半 (3.2-2.9万年前)

中部・関東地方の中部高地産黒曜石利用は漸減している(63.5%)が、依然として他の原産地の黒曜石と比較して利用率は高い。しかしながら、中部高地原産地での遺跡の発見もまた、依然少ないままである。中部高地では、石刃製作に特化した大規模ワークショップが発見されるなど、原産地と直結した活動が認められる。

(3) LUP (後期旧石器時代後半期) 前半 (2.9-2.5万年前)

中部・関東地方における中部高地産

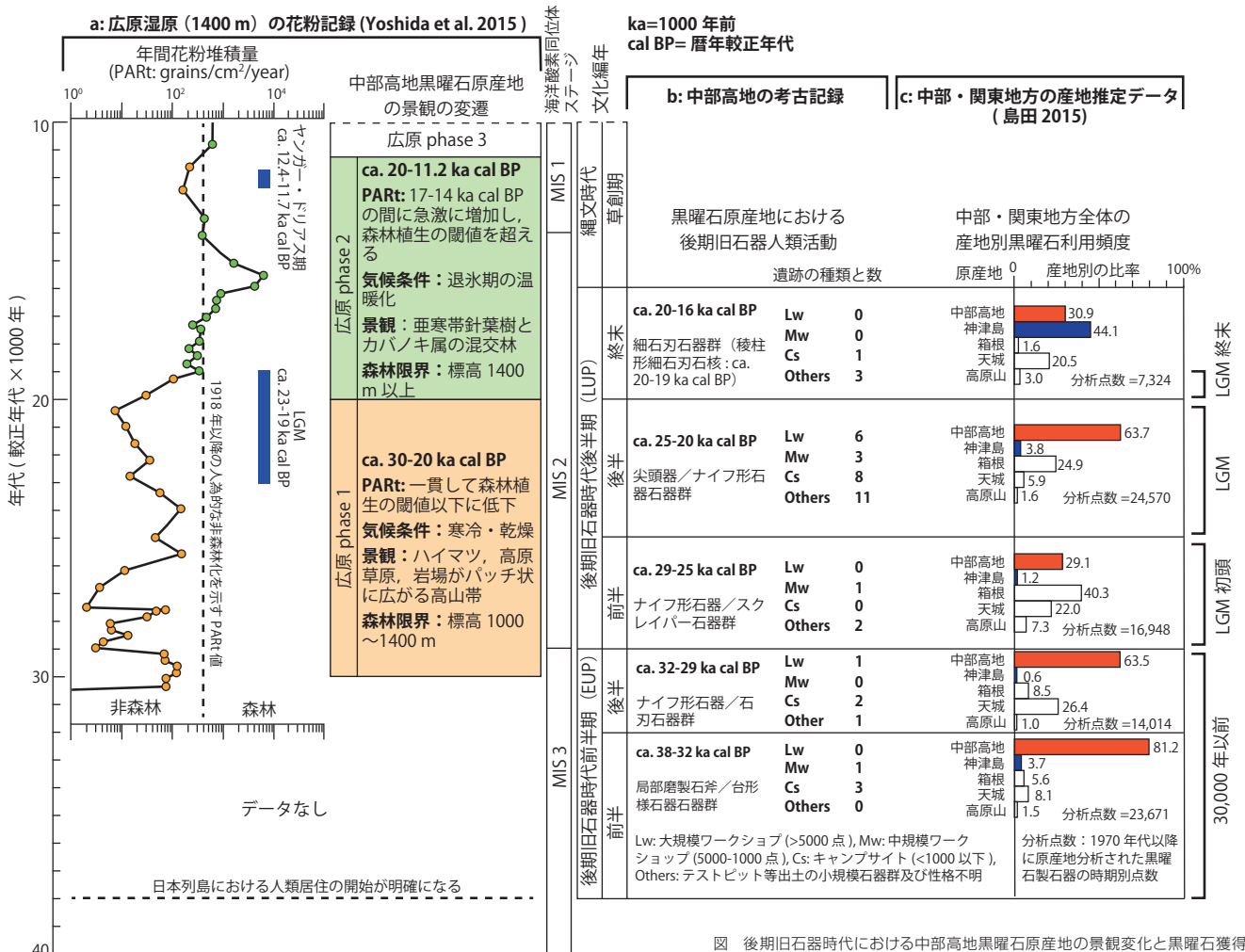


図 後期旧石器時代における中部高地黒曜石原産地の景観変化と黒曜石獲得活動

黒曜石利用は激減している(29.1%)。中部高地原産地での遺跡も確実なものはほとんど認められない。LUP前半の中部高地原産地の景観は、3万年前以降の気候寒冷化により現在では標高2000～2500m以上に見られる森林のない高山帯であった。

(4) LUP 後半(2.5-2.0万年前)

中部高地産黒曜石の利用は63.7%まで回復する。また各地の黒曜石利用は中部高地産に収れんし、LUP後半は中部高地産が最も多用される時代である。中部高地原産地の遺跡数は大きく増加し、大規模な石器ワークショップが原産地近くに多数残された。しかしながら、LUP前半と同じく中部高地原産地の景観は視界が開けた高山帯であり、年間花粉堆積量(PART)は、2.5万年前から2万年前にかけて連続的に減少し、気候寒冷化が一段と進行する。最終氷期最盛期(LGM)とほぼ一致する。

(5) LUP 終末(稜柱形細石刃核石器群)(2.0-1.9万年前)

LUP終末の半ば、約1.7万年前までに、森林限界の上昇により中部高地原産地には森林環境が発達し、気候が温暖化したことを示している。しかし、中部高地産黒曜石の利用は再び減少し(30.9%)、その代わりに神津島産黒曜石の利用が後期旧石器時代ではじめて急増する(44.1%)。中部高地産黒曜石と神津島産黒曜石の二極化である。中部高地原産地の稜柱形細石刃核石器群(2.0-1.9万年前)の発見は極めて稀で、LUP後半と比較して遺跡数が激減している。

4. 考察

(1) 3万年前以前

MIS3はMIS2に比較して温暖で中部高地原産地の景観も亜寒帯針葉樹林であった可能性が高い。中部高地産黒曜石の利用も高率である。原産地に残された遺跡の性格も多様で、活発な原産地開発が展開したことがうかがえる。こうしたことから、多数の遺跡が中部高地原産地に残されたと考えられるが、発見

されている遺跡は少ない。この現状は、3万年前以降の高山帯の寒冷乾燥気候により盛んに岩石の生産と崩落が起こり、EUP石器群が覆われ、発掘が阻害されていると考えられる。中部高地では、こうした実例が幾つか確認されている。

(2) LGM 初頭

3万年前以降、中部高地原産地では高山帯が発達し、本来であれば黒曜石の探索と獲得に好適な視界が開けた景観であるが、LUP前半の石器群はほとんど見つからない。中部高地黒曜石の利用も激減するが、利用が全く途切れることはない。この状況は、中部高地原産地では遺跡が残されない、黒曜石を獲得するだけの短時日の活動が行われ、原産地の訪問頻度が低下したことで説明できる。3万年前以降の気候寒冷化は、その当初、原産地での人の活動を大きく制限していたと考えられる。

(3) LGM 寒冷期

2.5万年前以降、継続的な気候寒冷化が進行しており、中部高地原産地での人の活動はさらに低下したはずと予測されるが、事実は逆で、LUP後半の黒曜石獲得活動は中部高地で最盛期を迎える。この矛盾は、寒冷期の中部高地の高山帯を最大限に利用する能動的な文化的・社会的適応の現れであると解釈できる。中部高地の遺跡では炉跡が発見されるようになり、非森林域での火の制御技術が発達した。また、中部高地石器群には、中部・関東地方のローカルな特徴を持った石器ワークショップが残され、各地から黒曜石獲得のタスクフォースが派遣された可能性が高い。さらに、原産地付近には悪天候時のシェルターあるいは長期滞在を見越した恒常的な上屋を持った構築物が存在したと指摘されてもいる。寒冷気候下にある厳しい景観に対する能動的な資源開発活動の一例である。

(4) LGM 終末

LGMの終末にあたる2.0から1.9万年前には、中部高地でも気候は温暖化に向かい、森林環境も回復傾向にある。一層の黒曜石獲得活動の展開が見込めるが、中部高地原産地における稜柱形細石刃核石器群はほとんど発見されず、遺跡数は

再び減少した。この状況は、新たな石器技術の登場と、集団の移動領域の再編成によって説明できる。

稜柱形細石刃核による細石刃の生産には大形原石が必要なく、加工も簡便である。原産地では数センチ程度の小形原石の獲得だけが行われ、石器ワークショップも残されない考古学的に不可視な獲得活動が行われていたと考えられる(堤2011)。また、森林環境の回復によって大形原石が見つけない状況が生じたのかもしれない。中部高地と神津島の黒曜石利用の二極化には、地域的な偏りが著しく反映している。中部高地産黒曜石の利用は、主に野尻湖、関東北部、関東東部の居住地で行われ、神津島産黒曜石は、愛鷹箱根、関東西部(地域分けについては前号の図1を参照)で利用されている。このことは、中部高地を周回し黒曜石を獲得する山の集団と神津島を周回する海の集団が並存していた可能性を示唆する。これにより相対的に中部高地産黒曜石の利用が低減し、利用率の低下に反映していると考えられる。

このように、後期旧石器時代における気候変動は、単純に集団に負の制限をかけるだけでなく、生存に厳しい環境へ果敢に進出する能動的な人類適応を引き出すこともある。また、社会的な変化も資源開発活動に影響を及ぼす。中部高地原産地の土地利用の歴史的变化は、先史狩猟採集社会における人と環境の相互作用が複雑なものであることを示している。(了)

謝辞

本研究は私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「ヒト-資源環境系の歴史の変遷に基づく先史時代人類誌の構築」(研究代表者:小野昭)による研究成果の一部である。

【参考文献】

- ◆公文富士夫・河合小百合・木越智彦(2013) 中部山岳地域における第四紀後期の気候変動。地学雑誌, 122(4), pp. 571-590.
- ◆堤隆(2011) 細石刃狩猟採集民の黒曜石資源需給と石材・技術運用, 資源環境と人類, 1, pp. 47-65. 明治大学黒曜石研究センター

高砂文字入蓬莱紋柄鏡からみる 和鏡の意匠

写真は「高砂文字入蓬莱紋柄鏡」という和鏡です。

和鏡とは平安時代後期以降に国内生産された金属鏡を指します。894（寛平6）年に菅原道真の建議により遣唐使廃止が決定したことを契機に中国・唐文化の影響が弱まると、平安貴族の嗜好を反映した国風文化が開花します。その時流を受け、中国鏡の模倣から日本に馴染みのある草花や動物、故事をモデルにした文様を採用したことで日本独自のデザインをもつ和鏡が創作されました。やがて室町時代後期に入ると、祭祀道具だった和鏡は姿を写す化粧道具として日常生活に溶け込みます。それを象徴するのが柄鏡です。円鏡に柄が付いたことで手に持ちながら顔を写せる柄鏡は身分なく幅広く愛用されました。

写真の柄鏡には一際目立つ大きな文字で「高砂」と書いています。これは「大文字」といい、「高砂」とは能の演目の一つで、仲睦まじい老夫婦が登場することから夫婦円満や長命を願う吉祥文字です。大文字が流行したのは江戸時代後期からで、縁起の良い意匠とあわせて「高砂」のようなめでたい意味の文字が好まれました。しかし、大文字には別の目的があります。柄鏡の出現以降、一般庶民に普及し需要が増加したことで、大量生産が可能な踏み返し法により粗製乱造を行いました。何度も足で強く踏み押した鑄型を使うことで鮮明さを失ってしまった文様を隠すため大文字を前面に強調させたのです。この柄鏡も踏み返し法で鑄造したためか、砂粒砂目地と呼ぶ鏡の地文が十分に浮き出ていません。

その大文字のまわりには、鶴が二羽、亀が一匹、大きな松の木とその側に小さな竹が描かれ、鶴の足元には波が押し寄せる洲浜が見えます。これらは吉祥慶賀文様と呼ばれ、このような意匠の和鏡を蓬莱鏡といいます。蓬莱鏡とは吉祥慶賀の象徴として、中世から婚礼調度品や御神鏡として最も好まれました。「松竹」「鶴亀」「洲浜」により構成される蓬莱鏡は円鏡が多く、江戸時代後期になると婚礼道具に相応しいとして柄鏡にも好んで使われました。

左端に「天下一藤原政重」と銘がついています。「天下一」とは安土桃山時代に織田信長が職人の生産意欲を高揚させる政策として公許した称号です。本来、天下一とは各種工芸の職人一人だけに与えられる称号ですが、次第に乱用が増え、称号を持たない鏡師の鏡にも天下一が付けられました。これを見かねた徳川幕府は1682（天和2）年に天下一の使用禁止令を發布して取り締まりましたが、この禁止令はかえって鏡師が皇室から受領国名を拝領し、それを基に新たな銘を作り出す形式に拍車をかけてしまいました。これも禁止令が出されますが、反発が大きく1772（安永元）年に撤廃されることとなります。以降は鏡師、受領国名を含んだ長い銘が好まれますが、銘で和鏡の年代を特定するのは難しく、踏み返し法により中期に鑄造された和鏡も後期に鑄型の原型として使われた場合もあることから慎重に考察する必要があります。鏡師「藤原政重」の銘は江戸時代中期～後期の和鏡に多くみられること、砂粒砂目地の粗さを考えると写真の柄鏡は江戸時代後期のものだとするのが妥当であると考えます。

意匠の他に和鏡の形態も人々の装いの流行と共に変化してきました。江戸時代前期の柄鏡は握りやすさを重視して柄が長いのに対し、後期になると柄よりも鏡面が大きくなります。これは島田髻、勝山髻のような技巧をこらした結髪の流行や髪飾りの多用化による大造りの髪型でも写るような、和鏡も大形化した背景があるからです。一面では後頭部が写らないので、鏡台に固定するか、小形の合わせ鏡を使い、後頭部を見るなど工夫していました。日々の身仕度は今も昔も変わらず大変なのです。

残念ながらこの柄鏡は鏡面が曇っているため、鏡としての姿を写す機能は失っています。しかし、意匠と形態を通して当時の人々の嗜好と習俗を知ることが出来るのです。（伊藤 友香子）

【参考文献】

- ◆『柄鏡大鑑』青木豊・内川隆志編著 ジャパン通信社 1994
- ◆『和鏡の研究』広瀬都巽著 角川書店 1974



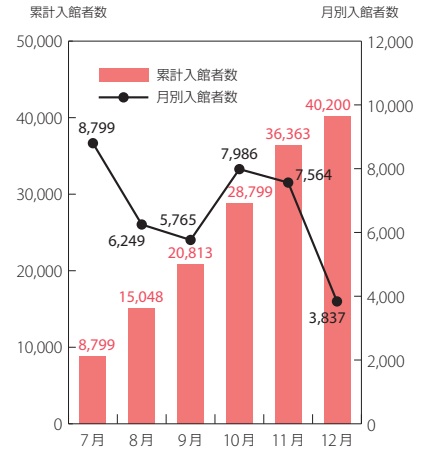
A-165 高砂文字入蓬莱紋柄鏡

博物館入館者数の動き (2015年7月～12月:延べ人数)

2004年4月以降の
総入場者数累計771,711人

7月～12月	延べ人数
図書室利用者数	3,058
教室等利用者数	1,565

特別展示室来場者内訳		開催日数	来場者数
7/3～8/2	学生たちの戦前・戦中・戦後	31日間	5,255
8/28～9/19	『リトルウィッチアカデミア』の世界	23日間	1,755
9/25～10/18	「明治の写楽」豊原国周の世界	24日間	2,685
10/27～12/6	漆と塩の人類史	41日間	3,258



団体見学の記録 2015年7月～12月

※事前に見学のお申し込みをいただいた団体のみ掲載しております。

- 【一般】** 千葉県立小金高等学校PTA (45名) / 関西学院同窓会東京支部TWC (トウキョーウォーキングサークル) (51名) / しっぶすデイサービスサロン (8名) / ベストリハ高田馬場 (16名) / 東京遊歩会 (35名) / 品川区をよく知る会 (6名) / 川崎市立高等学校地歴公民教育研究会 (15名) / 千葉県技術・市場交流プラザ第9期会 (6名) / クラブツーリズム (7名) / 朝日カルチャーセンター プロジェクト事業本部 (20名) / NPO東京シルバー歩こう会 (10名) / 長和町民大学キャンパスツアー (15名) / 明治大学校友会熊谷・行田支部 (17名) / 芽生 (25名) / 飯山満台悠々クラブ (17名) / 明治大学史学地理学科地理学専攻 昭和37年卒同窓会 (8名) / 九里市庁文化研修団 (22名) / 悠々会 (42名) / 千葉会 (30名) / 匠達人権擁護委員協議会第二部会 (11名) / 大和市中学校教育研究会社会科部会 (24名) / クラブツーリズム東京新発見旅 千代田区 (86名) / 医療法人慈友クリニック (32名) / 相模原市立小山公民館 (40名) / さいたま市シニア大学九史会 (30名) / 柏シルバー大学院 (70名) / くすのきクラブ シティコープ清新 (29名) / 三菱地所 ゆうゆう倶楽部 (37名) / 横浜歴博もりあげ隊 (20名) / 中央大学49年白門会 (18名) / 鎌倉シティガイド協会 (18名) / 明治大学校友会八王子地域支部 (21名) / 皆んなで楽しく歩こう会 (20名) / お茶の水女子大学 (5名) / 毎日新聞旅行TOKYO大学博物館さんぽ (20名) / 日本セカンドライフ協会 (14名)
- 【小・中学校】** 関東学院中学校 (11名) / 明治学院中学校 (50名) / 駿台甲府中学校 (54名) / 調布市制施行60周年記念 中学生のための大学一日体験入学 (26名) / 立教新座中学校 1年生 (24名) / 府中市立府中第八中学校 (6名)
- 【高等学校】** 岡山県立玉野光南高等学校 (19名) / 仙台第一高等学校地歴ゼミ01班 (11名) / 昭和薬科大学附属高等学校 (24名) / 武蔵野中学高等学校 1年生 (52名) / 北海道帯広三条高等学校 2年生 (33名) / 新潟県立柏崎常盤高等学校 2年生 (162名) / 北海道札幌藻岩高等学校 2学年 (3名) / 茨城県立水海道第一高等学校 1年生 (42名) / 埼玉県立越谷東高等学校 (35名) / 鳥取城北高等学校 2年生 (21名)
- 【大学・大学院・専門学校】** デ・ラ・サール大学 (10名) / 慶應義塾大学 (31名) / 法政大学 金井ゼミ (10名) / サンパウロ大学 (20名) / 神戸学院大学 佐藤ゼミ (19名) / 明治大学法学部医事法演習・立命館大学法学部民法演習今田ゼミ (30名) / 明治大学法学部 山本ゼミ (13名) / ランシット大学 (16名) / 明治大学理工学研究科新領域創造専攻デジタルコンテンツ系 (5名) / 國學院大學地方史研究会 (13名) / 明治大学経営学部「公共マーケティング論」(60名) / 大原日本語学園 (12名) / お茶の水女子大学文教育学部考古学通論2 (17名) / 駿河台大学法学部 竹内ゼミ (刑法) (22名)

M2カタログ

ご好評の内に完売した、

考古ボールペン・刑事ボールペン

がこの度、リニューアルして帰ってきました!!

考古ボールペンは涼やかブルーの本体に、ブロンズで当館所蔵の土偶・鏡・石器・銅鐸のモチーフが、刑事ボールペンはシャープなブラックの本体に、メタリックブルーの御用提灯・刺又・十手のモチーフが輝きます。インクは赤と黒の二色、さらにシャープペンシル付なので、一本あれば様々なシーンで活躍間違いなしです!

お値段もお手頃で、来館の記念やお土産にぴったり。

そのあなた、一本いかがですか?



ボールペン 各300円



博物館友の会活動の紹介

明治大学博物館友の会は、博物館のサポートとより良い生涯学習を願う人の集まりです。2015年12月末現在500名余の会員を擁し、各種活動を活発に行っています。今回は活動の一つであるボランティア活動について紹介いたします。

博物館友の会では現在会員の約2割にあたる100名余の方が博物館へのボランティアや友の会運営に関するボランティアに参加しております。ボランティア活動を通していろいろな方との出会いと自己研鑽に励んでおります。

■ 博物館図書室管理ボランティア

博物館図書室利用者の入退室の受付と案内をしております。活動日は月～土曜日の午前担当は9時50分～13時まで、午後担当は13時～16時30分の二交代制（午前・午後両方参加も可）、月に1回程度の参加になります。募集は常時受け付けております。

■ 展示解説ボランティア

博物館常設展示室で来館者の方へ解説の活動を行っています。活動日は火、水、木、金曜日の9時50分～16時30分になります。月2～3回程度の活動になります。毎年4月から5月はじめにかけて募集し、5月末から7月にかけて、7～8日間の事前研修を実施しております。

各ボランティアへの参加は希望をとって、都合の良い日に参加していただいております。なお、ボランティアに参加される方は博物館友の会の会員になっていただきます。

友の会への申込方法

詳しくは明治大学博物館に備えています「入会のご案内」をご参照、または明治大学博物館友の会連絡先へ「入会のご案内」をご請求ください。

明治大学博物館友の会 連絡先

〒101-8301 東京都千代田区神田駿河台1-1
 明治大学博物館気付 博物館友の会
 メールアドレス: meihakutomonokai@yahoo.co.jp
 ※博物館に友の会の担当者は常駐しておりません。
 連絡は必ずハガキまたはEメールでお願いします。

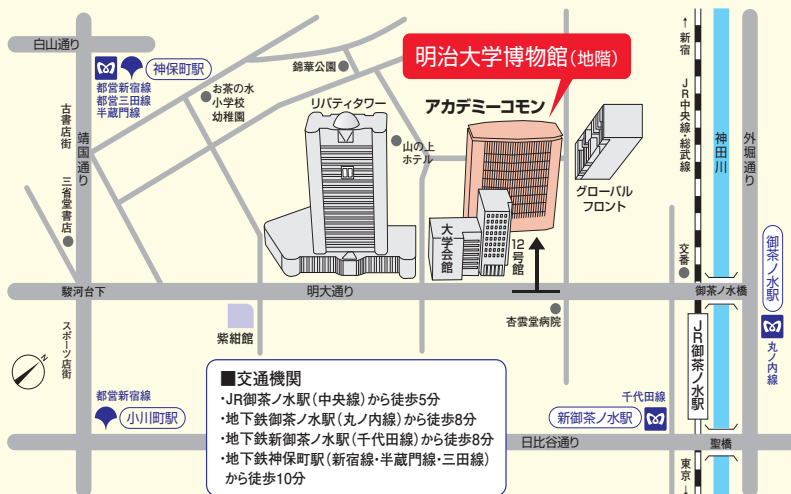
博物館案内

博物館案内

- ◆開館時間
10:00～17:00(入館16:30まで)
- ◆休館日
夏季休業日(8/10～8/16)
冬季休業日(12/26～1/7)
8月の土・日に臨時休館があります。
- ◆観覧料
常設展無料。
特別展は有料の場合があります。

図書室ご利用案内

- ◆開室時間
月～土 10:00～16:30
- ◆閉室日
日曜・祝日・大学が定める休日
夏休期間(8/1～9/19)中の土曜日
※図書室はどなたでもご利用いただけます。
※蔵書は閲覧・コピーのみとなりますので
ご了承ください。



■交通機関
 ・JR御茶ノ水駅(中央線)から徒歩5分
 ・地下鉄御茶ノ水駅(丸ノ内線)から徒歩8分
 ・地下鉄新御茶ノ水駅(千代田線)から徒歩8分
 ・地下鉄神保町駅(新宿線・半蔵門線・三田線)から徒歩10分

編集後記

博物館は開館10周年を節目とした常設展示のリニューアル工事が終わり、積み重ねた研究の成果を随所に散りばめた新しい展示となりました。今号では、クイズ形式でその展示の見どころをご紹介します。これを持って展示室を巡り、あなたも明治大学博物館マスターを目指しましょう！